



心の足跡



道徳教育だより

令和4年11月1日

第5号

発行：学校長、道徳部会

父の一言

出典：彩の国の道徳（中学校）自分をみつめて 内容項目A-2 節度、節制

<教材の主な内容>

ある日、食卓でテストの点数があまり芳しくないという話をしていたところ、普段無口の父が、「お前はいくら言っても靴をそろえることができない。だからテストでも思うようにできないんだ。」この言葉に私は少しむっとして「そんなこと関係あるわけじゃないじゃないか。靴そろえなんかができたら、テストで点は取れないよ。」と反論します。すると父は「おまえ、今『靴そろえなんか』と言ったな。でもお前は『なんか』すら、きちんとできないじゃないか。」この言葉に私は、はっとします。先日の新人戦で負けて悔しくて泣いていると、顧問の先生から「なぜ負けたのか、よく考えなさい」と言われて、「サーブが入らなかった。決めようとしたボールが入らなかった。」などと答えると、顧問の先生は「そんなことではないんだよ。いつも言っているだろう。テニス以前に中学生としてやるべきことがしっかり出来ていたかどうかを考えなさい。この会場に来た時に他校の先生方に大きな声であいさつができたか。毎日の練習で、大きな声が出せていたか。服装がいいか減になったりしていないか。原因はそういうところにもあると思う。」こう話されたことを思い出したからです。『外相整って、内相自ずから熟す』自分への戒めのことばです。



10月に校長が、2-Aで「父の一言」の授業を行いました。大まかな内容は上記のとおりです。2-Aのみんなには、靴をそろえれば成績は上がるのか？大きな声やあいさつができれば、うまくなるのか？と聞いたところ、Yesと答えた生徒は6人。Noと答えた生徒は16人でした。Yesと答えた生徒は、「細かいところがきちんとできるようになれば、勉強やスポーツにもメリハリがついて向上すると思う。」Noと答えた生徒は、「成績と靴そろえは、関係ないし、大きな声で返事をするだけで、うまくなるわけがない。」などと答えてくれました。最後に、小嶋清士郎先生と校長の体験を話して授業は終わりました。以下に生徒の感想を何点か紹介します。

- 今日の授業で、靴をそろえることやあいさつをすることなどの細かいことを重ねると、部活や勉強につながっていくことが分かった。確かにバスケットのチームを見ていると、強いチームはリュックや靴がちゃんとそろっている。これからも「他の人が声を出していないから出さない」でなく、まず自分から、あいさつ、声出し、返事をきちんとしていきたいと思った。
- 今日の授業で思ったことは、私も、普段からいつ、誰が、どこで見ているかわからないので、靴をそろえることや、横断歩道を降りて渡るなど、細かな事を意識して取り組んでいます。また、クラブチームでも、バックはきちんと並べて、靴もそろえて、水筒もそろえています。そう言ったことが、自分たちの成長へとつながると改めて感じ、これからも続けていきたいと思いました。
- 私は今日の授業をして、大きな声であいさつ、返事、しっかりとした服装、靴をそろえるなど、そのような細かいところまで、しっかりとやることでそのチームは徐々に、少しずつ強くなっていくのではないかと思います。清士郎先生も映子先生も須田先生も部活の時にはよく「ちゃんと声を出して」と言われます。映子先生には、「声が小さいチームは、いつまでたっても弱いまま、強いチームはしっかり声を出している。」とも言われました。今回の授業を受けて、3人の顧問の先生たちが言っていることを少しでも意識して、これからの練習に臨みたいと思いました。少しずつでもいいから直していきたいです。
- 私は今日、校長先生の授業を受けて顧問の先生が「他の先生が来たら大きな声であいさつをしてください。」と言っていた意味が分かりました。今までは、先生が言っていることだし、大切なことだからという点と部長でみんなを引っ張っていく立場だから、先生の言うことはきちんとやろうとしか思っていませんでした。これからは、いろいろな場面で身の回りを整えて、内相を良くしていきたいと思いました。ありがとうございました。

<1年A組の取組>ソーシャルスキルトレーニング「上手に聞く」を行いました。

- 今日の授業で、相手がうれしくなる話の聞き方について学びました。「何で?」「何が?」などの言葉を使うと、会話が弾み、より深く相手のことを知ることができると思いました。相手がいまどういふ思いで話しているのかを考えて「辛かったね」「すごいね」「頑張ったね」など、声をかけていけるようになりたいです。
- 上手に聞くスキルを学んで、身につけることができたと思います。家族や友達、学童の支援員さんに「聞き上手だから何でも話せるよ」と言ってもらったことがあるけれど、自分の態度を見直して、改めるところを見つけることができて良かったです。みんな笑顔で快く接していることで、クラスの雰囲気も温かくなると感じた。
- 今日の授業を通して、上手に聞くことはとても大切だと分かりました。僕がやっているときと、〇〇さんがやっているときでは、△△さんの反応も違ったり、ロールプレイなどでも、相手が相槌を打ってくれると「もっと話したい」と思いました。また、相手だけではなく自分が「上手に聞く」ことを意識している時でも、気持ちの良い会話をするなどと思い、スッキリした気分になりました。
- 私は今日の授業で、人と話すときに目を合わせたり、質問したり、相手の話をよく聞いて会話すると楽しくなるなど思いました。これからは意識しないでこの3つができるといいなと思いました。

<2年A組の取組>「教材名：みんなでとんだ!」 内容項目B-8 友情、信頼

- 「本当の友情」とは、その人の本音を聞いてあげることだと思う。みんなで何かを成し遂げることで、結束力が生まれ固い絆になると思っています。私は、これからの体育祭で、本当の友情を築き上げたいです。
- まず矢部ちゃん本人に、本音を聞かなくて話し合いを進めるのは友情ではないと思った。自分の意見を言えないままにしたらだめだと思うので、本音を聞くことが今回の内容では、「本当の友情」だと思いました。
- 「本当の友情」とは、無理に調子を合わせず、互いをリスペクトしあっている関係だと思う。そうすれば、本音を言っても「ハッ?」と言うことにはならない。それに対等の立場でなければ友達にはなれない。
- 矢部ちゃんが飛びか飛ばないかに反対か賛成かはともかく、全員で話し合い、本音を話し合える環境が大事だと思う。自分だったら、最初から練習に参加してもらったほうが良いと思う。
- 「本当の友情」とは互いに気遣いあえる。本音が言えない人も世の中に入ると思うから、その人をできるだけサポートしてあげたい。そうすれば、相手も自分も気が楽になると思った。

<3年生の取組>

A組B組「教材名：しあわせ」(出典：新しい道徳3 東京書籍) 内容項目B-9 相互理解、寛容

- みんなが幸せになるには、固定概念を変えて、視野を広げることが大切だと分かった。思いやりをもって、行動することを心がけたいと思う。
- 人間はすべてが同じじゃないから、人それぞれ考え方や価値観が違うのは当たり前なので、すべてを否定しあうといつても暗い雰囲気になってしまうから、好意的にとらえることは大切だなと思った。
- やっぱり誰にでも好きなこと、苦手なことがあるので、違ったからと言って否定することはおかしい。一斉には全員が幸せになることは難しいけれど、苦手なことは周りの人と協力し、好きなことはお互いに分け合えば少しでも幸せになる人が増えると思った。
- 普通に日々平和に生活していることがすでに幸せだと思うけど、個人個人の意見をしっかり聞くことが幸せへとつながると思う。
- 自分の幸せを主張するだけでなく、相手の幸せについてもしっかり話し合いお互い(全員)が納得できるような話し合いをすることが必要だと思いました。
- 自分と他人を比べず、違いを認め合い、平和な日常を送ることが必要。

<やまなみ学級の取組>ソーシャルスキルトレーニング「ルールを変えるのは?」

質問：みんなで楽しくゲームをすには、どうしたらいいでしょうか?

- みんなに公平なルール(するのないルール)でやる。
- ルールは絶対に変えないほうが良い。
- みんなが良いならルールを変えても良い。
- ゲーム必ず勝ち負けが出ることを分かってゲームをする。
- 負けそうになったら、するをしても良い。